

第363回放送番組審議会

1 日 時 2016年3月8日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者8名 欠席0名

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、五大路子委員、吉川知恵子委員
tvk;中村社長、押川取締役、大谷コンテンツ局次長、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①3月のタイムテーブル

②3月～4月の特番一覧表

(2)視聴合評

ダイドードリンコスペシャル日本の祭り

「大磯の左義長～小正月の火祭り～」

2016年2月11日(木・祝)12:00～12:55

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年2月15日(月)～2016年3月6日(日)

・第362回(2月)放送番組審議会の議事報告

(VTR;「ありがとッ!」2016年3月8日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1)2016年4月12日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2)審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長

それでは定刻になりましたので、山田先生お願いします。

山田委員長

東日本大震災から、早いもので間もなく5年が経ちます。未曾有の大震災を風化させてはいけません。あるいはその教訓を首都直下地震に生かそうとか、言葉ではいろいろ言うことができますが、被災地から遠く離れた横浜にいますと、そうした気持ちも次第にさめてきております。私事ですが、そんな薄れ行く気持ちに自戒を込めて、今月下旬に一番被害の多かった宮城県石巻市に足を運んで、初心に戻ってこの大災害を見つめたいなと思っております。それでは、363回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。中村社長の方からお願いいたします。

中村社長

本日もお忙しいところをありがとうございます。年度末ということで、皆様も本当にお忙しいところだと思います。今年度の最後の番組審議委員会ですが、吉川先生には去年5月にご就任いただいたわけですが、その他の方々は一年ずつということですが、引き続きよろしくをお願いをしたいと思います。今、山田先生からお話がありましたが、3.11は5年ということになりますが、その直後に横浜マラソンの2回目ということで、私どももまた7時間半の生中継をやらせていただくということで。被災地の方々は、まだまだ大変な暮らしをされている方が多いわけですが、一方で市民マラソンの大きな大会、これも楽しんでいただける方々には、本当に楽しんでいただけるかなと思っております。先般の発表で3月に第2回目をやって、それから丸1年半ほど空いて、来年は11月の開催になるようでございます。そういう意味ではちょっと間が開いてしましますが、今回もしっかりと放送をやらせていただこうと思っております。そちらの方も是非ご覧いただければと。全編は無理だと思いますが、ご覧いただければと思っております。本日もよろしくご審議をお願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めて参りたいと思います。まず放送番組について、お手元の3月のタイムテーブル、あるいは3月4月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いします。

押川取締役 議題に添って進めさせていただく前に、改めて押川でございます。櫻井の後任として、今度は編成局長という立場でこの審議会に参加させていただきますので、改めてよろしくお願いたします。それでは玉村の方から、タイムテーブルと資料につきましてご説明させていただきます。

玉村編成部長 3月の番組表と、「特別番組一覧」として3月と4月をそれぞれご覧ください。番組表に関しましては、中村からお話がありましたように、横浜マラソンの中継をメインにしたものになっております。今度の日曜日朝8時から3時半まで。メインパーソナリティは去年と同じで中西哲生さん。解説は、今年は谷川真理さんをお願いをしています。中面にいきまして、お昼の番組「ありがとッ！」それから「佐藤しのぶ出逢いのハーモニー」といったところの番組と、川崎市、横浜市、JAさん、それから神奈川県のリギュラー番組をご紹介します。中面の番組表につきましてはご覧のとおりです。新しい番組は特になのですが、朝方のアニメ作品が変わって「トムとジェリー」の新作放映に変わっております。それからよる23時、金曜日の番組がJリーグの開幕に合わせて「Spirit ベルマーレTV」が、2月末から始まっております。新しい番組は以上です。もう一枚めくっていただきますと、特別番組等のご案内です。ママさんバレーの大会、共同制作番組「俺旅。シーズン2」「白鳥麗子」。それからマラソンの直前スペシャル番組です。タイムテーブルは以上です。続きまして「特別番組一覧」です。3月は、前回もお話させていただいたところを割愛させていただきますと、3月29日が「横浜対巨人」、本拠地開幕戦のナイターです。試合開始は18時30分ですが、18時からの生中継です。裏が4月に

なっていて、プロ野球中継の予定も入れております。4月末のところに「ノジマチャンピオンカップ」というのがございまして、これはBS-TBSで放送されたものですが、日程が間違っておりまして29日、30日、金曜・土曜のお昼帯に放送いたします。初めての試みです。簡単ですが、以上でございます。

山田委員長 はい、ありがとうございました。事務局から3月4月の番組について紹介をしていただきましたが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。

吉川委員 さっき、委員長の冒頭のご挨拶にもありましたけれども、東日本大震災から5年という節目を迎えるにあたって、何かそれに合わせた番組企画というのは考えていらっしゃるのでしょうか。

玉村編成部長 特別番組としてはないんですが、夜9時半のニュース、それから3月11日は金曜日ですので、当日の夜6時「NEWSハーバー」、そちらの番組の中で特集を組む予定です。

吉川委員 わかりました。

山田委員長 他にございませんか。3月から4月にかけての番組説明がございましたが、これについて。

白石委員 この久本アナウンサーは出ますよね。我々が応援するというか、PRするために何かありますか。この人は、こういうところがいいとか。タイム的にはどれぐらい。

中村社長 彼女はフルマラソンが今度初めてなんです。20キロは走ったことはあるんですが、フルマラソンは初挑戦です。なので、タイムとかなんとかいうよりも走りきるのかどうかということに、是非ご注目いただければ。それに向けてレディー・マラソンということでマラソンレッスンの番組をやりつつ、一生懸命練習をしている最中です。

白石委員 そうですか。

山田委員 これは半分、業務命令ですか。それとも「私に走らせて」という。

中村社長 五分五分じゃないですか。無理やりやらせるわけではないです。

山田委員長 他にございませんか。来年は番組審議委員からも誰か。

中村社長 5キロか、10キロで。

山田委員長 ないようでしたら、2 番目の視聴合評、これはかなり時間的にも長い番組ですので、これを皆さんとちょっと共有できればと思っております。

視 聴 合 評

山田委員長 それでは委員の皆さんから、ご意見を頂戴する前に、番組制作をされた大谷さんの方から、この番組の概要と言うか、お話しいただければと思います。

大谷コンテンツ局次長 何度かこの番組審議委員会でも審議をしていただいておりますが、「日本の祭り」シリーズです。「日本の祭り」は1月から12月の1年間なので、全国で放送されるんですが、今年2016年の全国さきがけ1回目の形になります。取り上げているお祭りは、神奈川県でも重要無形文化財にも指定されております大磯の左義長で、大変にぎやかなお祭りです。実は私も火は知っていたんですが、あんなにたくさん、いろんなお祭りが同時というか組み合わせあって、ひとつの左義長になっているというのは初めて知って。そういうところで、視聴者の方にも見ていただければなと思って、番組を制作いたしました。

山田委員長 はい、ありがとうございました。それでは委員の皆様方からご意見を頂戴したいと思います。いろいろ質問等が出るかと思いますが、それは大谷さんの方で、最後の方にまとめてお答えいただければと思います。まず伊藤さんからお願いいたします。

伊藤委員 はい。このダイドーの祭りシリーズは、何度もこの会議上の議題に上がりまして、それ以外にも何度か見るがありました。今回は今まで見た中で一番

自然に引き込まれる展開で、非常に優秀な番組になっていたと思います。やはり何回か触れたこの会議上で、祭りの中にもいろんな種類の祭りがあって、生活に根差したものであったり、大きな権威を示すものとか。こちらは大磯に根付いた、生活を感じさせてくれる、祭りを知ることで生活が見えてくるということで、とてもいい祭りの存在を教えてくれたと思います。それを満たす構成として、今まで会議の中で何度か、いろいろな皆さんから出てきました、たとえば「地図がほしい」とか、「歌があるなら、歌詞がほしい」とか、そういった部分や、ショットも「ロングショットがほしい」「アップがほしい」とか、いろいろなものが今回クリアされていて、そこはとても見やすいという印象を持っています。特に歌のところでは歌詞が見やすく縦書きで、書体も選ばれて出てくる。こういったところは、誇張しすぎない程度に必要な演出で、とても秀逸だと感じました。最後にインタビューを、関わったいろいろな方にしていくというまとめ方もまた良かったんですが、ニューカマーであったり、外国人であったり、最年長であったり、応援団だったり、会長さんだったりというところを、くまなくやっていたんですけれども、その完全さと同時に、やはり子供が参加するということで、子供の声。それと、ニューファミリーの参加を期待するということでは、若い主婦とかそういったあたりの声、「よかったな」という声が聞けたら、また次への誘因になるのかなど。総じて非常にバランスのいい、見ていて長さが苦にならない番組だと感じました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして林さんお願いします。

林委員

大谷さんもさっきおっしゃったけど、私共も左義長はよく取り上げるんですけど、これほど一カ月に渡っていろんな行事があって、それで構成されているということは、私も初めて知ったということでは、非常に意味のある番組だったと思います。このシリーズで常に伝統を継承していくことの大切さと、難しさと、

そういったことも提起されているんだけど、まあそろそろパターン化してきたかなという気もしてきました。もっと別の視点から日本の祭りを取り扱えないのかなと。検討なさっていると思うんだけど。そういったところの片鱗を見せていただければ、次どういのかはわからないですけど、そういう気がしました。非常にためになったということで、これ、取材は1ヶ月やっていらっしゃるわけですか。

大谷コンテンツ局次長 短いですね、今回は。でも12月の頭ぐらいからですから、1カ月ぐらいですね。

林委員 そういった結果がよく出ていたと思います。これ、注文と言ったらおこがましいんですが、何か芦川さんとか斉藤さんとか、マイクさんとか、ボランティアグループの若い方。どなたかにもうちょっとスポットを当てて、均等にとらえるのではなくて、斉藤さんでもいいんです、「のの字巻き」をやっていた。相対的にどなたかに特化して、その人を通じて祭りの伝統継承の大切さと難しさを、わかってもらえるような構成にした方がいいのかな、という気がちょっとしました。平均的に取り上げると、それだけ印象が薄れてしまうんじゃないかということなんですけど。今おっしゃいましたけど、せっかくお子さんたちが出てきているので、彼らの祭りに対する思い、コメントも聞きたかったなということと、女性たちが飾りをやっていたよね。祭りは「基本的にあまり女性は」というところはあると思うんですが、地域で盛り上げていこうというのであれば、ああいった方たちの声も聞きたかったなと。そういう意味では町役場の観光振興課の方であるとか、観光協会の方も側面的な支援をなさっているはずですから、そういった方たちの声も合せて聞ければ、もっと良かったのかなという気がしました。総体的には、知らなかったことが知れてよかったなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございます。続きまして、吉川さんお願いいたします。

吉川委員

私は番審歴が短いので、「日本の祭り」シリーズを見たのはこれが初めてでした。番審の中で、私がこれまでコメントさせていただいた、これまでの中では一番番組としての出来が良かったんじゃないかなと思うぐらい、一番は構成がとてもよかったです。流れ、テンポがとても良くて、まずオープニングに大磯海岸の印象的な景色が映し出されて、次にお祭りのダイジェストが映し出されて、ワッと引き込まれて。次に大磯の歴史や地理の紹介があって、祭りの歴史だったり特色だったりということもしっかりコメントされて、祭り当日の様子がずっと流れていて、そこに祭りに関わる人たちのインタビューがあるというのが、非常にバランスよく構成されているなど。ちょっと興味本位の質問をしてしまうと、あまりにもバランス的にも良かったので、ダイドーさんがスポンサーということもあって、製作費が豊かで、外注スタッフさんとかが日頃あまり本社の番組制作に関わっていない人たちも、逆にこの番組には関わっているのかなというところは、ちょっと聞いてみたいところですね。今までとは、本当にテンポとか構成の充実度が、ちょっと違うというのが私の印象でした。それから2点目、これも良かったなと思ったのは、「なぜ豆腐がふるまわれるのか」とか、そういう由来もきちんと紹介してくれるという意味で、私たちの知的好奇心にもしっかり応えてくれる。私は常識がないので「左義長」という言葉が、すぐにいわゆる小正月に行われる火祭りのことだと、一般的に使われている言葉だというのは知らなかったもので、最初にナレーターが「さぎちょう」と言ったときに、あの「左義長」という言葉が頭に浮かばなかったんですね。ですから、できればやはり左義長というのを文字で見せて、「これが左義長で、火祭りのことを言うんだよ」ということが、もうちょっとわかりやすくてもいいかなと思いました。それから CM も、当然のことながら祭りテーマなので、番組との連

続性があって、感情がさめないというのもとても良かったですし、それから何よりもこの祭りが、大人だけの祭りでも子供だけの祭りでもなくて、老若男女がみんなで祭りを作って参加しているというのが、画面を通して非常によく伝わってきた。この祭りの素晴らしさ。それも大変良かったです。それからインタビューに関しては、私は林委員とはちょっと違う意見で、やはりマイクさんみたいに外国から来た人が地元の一員となって祭りに参加していたり、外からの応援団の人がいたり、責任者がいたり、インタビューを通じてその人たちの言葉がまた実によく、ある人が「昔は祭りを理由に会社を休めたけど、今はそんな時代じゃないし」とか、「藁が手に入らない」とか、いろんな言葉が自然に出てくることで、今この祭りが、やはり時代の流れの中で変容を遂げなきゃいけない、でも祭りを一方では継承していこう、伝統を守っていこうという人たちの思いがあって、それに支えられてこの祭りがあるんだ、というのがこのインタビューを通して、説明口調ではなく、見ている私たちに伝わってきたというのが、非常に出来のいいインタビューだったなという風に思いました。注文としては、1点目は、一番息子から始まるいくつもの行事がどうつながっているのかという、そのつながりがあまりわからなかった。そこをもうちょっと教えてもらえたら、せっかく1ヶ月も続くお祭りという特徴なので、個々の珍しいスポット的なものがどうつながりがあるのか。もしかしたらないのかもしれないんですが、あればそれが知りたかった。それからもうひとつ残念だったのが、番組最後の吉村作治さんのコメントが非常に唐突に思えた。ここまでの流れは完璧だったんですけど、で、「日本の祭り」シリーズということでやっていらっやると、今わかりましたので、そうであれば、淀川長治さんのロードショーの解説よろしく、完全に絵を切っちゃって、たとえば番組が一回そこで絵を切った後に、「いかがでしたか」と始まって、全く違うものとして入ってきてほしかったな

と。吉村作治さんの話があった後にまた CM の後、「伝統ですかね」と始まった、会長さんのインタビューみたいなコメントがあって、それでエンディングロールに入っていくというのは、いかにも吉村さんの部分が唐突に違和感を持って感じられたので、祭りの話は祭りの話で一回切ってもらって、日本の祭り全体の紹介のことはまた最後に触れてもらったら、完璧なまま終わったのにな、という感想を持ちました。以上です。

山田委員長 はい、ありがとうございました。今吉川さんから「この点についてお伺いしたい」ともありましたが、それもまた最後の方でちょっとお話いただければと思います。続きまして白石さん、お願いします。

白石委員 大変いい番組で、1 時間あっという間に過ぎた気がします。ただ批評をする前に、日本のお寺が減っているんですという話と、神社が減っているんだそうですね。ですからその話とこれを関連付けて、左義長は四百年の歴史があるということで、高齢者、若手が少なくなった、また子供が少なくなった。祭りを司る人が少なくなったということは非常に厳しい状況なんだろうと思います。ただ四百年なんで続いているのか、ということテレビを見ながら感じたんですが、やはり海の仕事に携わって命を失ったり、農業、小作が不作に立ち入ったり、あるいは家族で子供が早く亡くしたり、あるいは働き手を失ったりということで、要は神に頼らざるを得ない歴史がずっとずっと続いてきたんだろうと。この四百年続ける背景には、自分たちの力では何ともできない、この神にすがることが、この祭りに込められているから続いているのかなと思ったんです。サラリーマンが多いですから、平日は集まりきれない。これも農家や、漁業、山林といった仕事から外れて、サラリーマンとして、会社へ行ってそこそこ頑張れば生活ができるという生活パターンが、確立されつつある状況なんでしょうが、そういうところは、この番組を見ながら考えさせられたところです。先ほ

ど吉川さんもちよっとお話がありました、藁は今、田んぼで細かくしちゃうんですね。脱穀機で紺に長い藁は今あまりないですよ、我々の村でも。ですから藁の調達はなかなか難しい。それから竹藪も、よくあれだけまっすぐな竹を見つけたなど。あれは「作ったんだな」と思いました。普通は曲がっていますよ。それも開発して竹藪は狭くなってきていますから。これから四百年じゃなくて10年20年で、竹は取れなくなっちゃうんじゃないかと思うくらい、変わってきています。農作も山も開拓されて竹がなくなってきています。つまり冒頭に言いましたように、神にすぎる人間の弱さがこれからも続くんだろうと思います。ですから是非、このような祭りは続けていただきたいなと感じました。

山田委員長

ありがとうございました。それでは二宮さんお願いします。

二宮委員

祭りシリーズ、前回の三浦のやつはかなりの思いとか重厚に作られているという印象に残っていますが、今回は全体として非常に自然と言いますか、淡々と番組が作られていたというのが第一印象です。私も隣町に住んでいますので、左義長は知っていますし、何度か見たんですが、前年の暮れからひと月ああいった行事が続いて、最後に火祭りとして、左義長としてああいう火祭りになるというのは、恥ずかしながら初めて知りました。いつも「祭りシリーズ」というのは本番に至る苦労話とか、コミュニケーション、そういう過程を丁寧に取材していくとことに魅力を感じていますが、今回も一番息子ですとか、七所詣りですとか、そういうところは説明も入れて丁寧に、非常にわかりやすくまとめられていったなという印象を持ちました。併せて、これは私の主観なんですけど、こういう番組の場合、ナレーションの良し悪しって非常に気になるんですけど、淡々と聞きやすく、うまく取材しているなという感じも受けたところなんです。あと取材全体の切り口として、後継者問題、藁と竹などの資材調達の難しさですとか、日程の取り方ですね。そういう今日的な課題という

のはどこの祭りにもあるんですが、そうしたことを掘り下げる一方で、子供を含めた地域の結びつきがいまだに継続していることですか、応援隊の存在ですとか、外国人の方の参加ですとか、そういう町本来がある土着性とかが、関係に合わせて変化してきているということ、誇張なく分析されてるなど思っています。トータルとして、全体を通じて飽きることなく、むしろ興味深く惹きつけられていったような印象を持ちました。敢えて課題提起をすると、私個人的には、左義長というのはいわゆる団子焼き、どんど焼きで、こういった行事は県内で結構残っているんですね。したがって神奈川県という地域性を意識した祭りシリーズであれば、県内の各地で残っている同様の祭りも併せて、相对比较として、少しでも紹介すると左義長のすごさですか、そういったこともあるとうちよっと番組の深さが出たのかなと、そういう風にも思いました。全体的に繰り返しになりますが、皆で団子を焼いて無病息災を祈る、また祭り文化の普遍性がよく伝わった、出来のいい番組だったなという印象を受けました。以上です。

山田委員長

はい、ありがとうございます。それでは五大さん、お願いします。

五大委員

かつて祭りというのは、祭りが必要とされていた時代があったと思うんですね。人が生きるのにこれほど情報がなく、人が人を信じて、人が人と手と手を合わせて毎日を生きているということが、祭りの中で昇華されてきたと思うんです。今までシリーズの中で、一度私も参加させていただいたこともあったんですが、私も大好きな番組で、その心の原点を今回は表してくれていたような気がいたします。ちょっと見たときに、昭和のぬくもりというか、一瞬「アーカイブなのかな」と思うぐらいのぬくもり感が、すごく番組自体にあふれていたように思います。強いて言うならば、伝統を伝えるという中で、大人たちはそうなんです、子供たちは本当にそのことがわかってやっているのかなと。ゲームがあり

iPhone がありという時代の中で、ああいうことをやるのが、どういう風に心の中で動いているのかなということも、ちょっと知りたかったなという気がします。今を生きる子供たちがああいうことをやってはいるんだけど、実際のところどんな思いでやっているのかな、ということも知れたら今後につながっていくんじゃないかなと思いました。バックに流れていた音楽はなかなか面白くてよかったですと思います。結局、地域の人々の結束というものもしっかりと画面に捉えていて、お祭りというと神輿だとか、大きな出し物があるということではなく、人が生きることの原点をしっかりと、今回は番組の中で浮き彫りにされていたと思います。ただ、今後これがどうなっていくのかなという、ある疑問を持ちながら拝見させていただきました。とてもいい番組だったと思います。

山田委員長

はい、ありがとうございます。続きまして布施さん、お願いします。

布施副委員長

非常に見ていて楽しかったです。私は東京生まれなんですけど、子どもの頃あったんです。だけど大人になるにしたがってなくなって、相当前になくなってしまったと思うんですけど。左義長というものが残っている大磯という町は、そういう意味で田舎のそういう町なんだなと思いました。うらやましい感じもしたんですが、大きな歴史から見ると滅びの運命にあるのは確かなので、どのような形で文化的な伝統を守っていくのか。あるいは修正したりしながら日本人の生き様の中に入れていくのかということも、ものすごく大きなテーマなんです。いつも感じますけど。そういう意味で、たしかに昔はこうだったなというのはそうなんだけど、これがそんなに長くない将来に、それをどういう風にしてゼロにしないで、現代的な形で残していったらいいのかということ、少し考えていけないんじゃないかなと。仮にそういうテーマで学生などにこのビデオを見せて、「どういことをしたらいいのか、ということを考えろ」と言うと、多分とんでもない意見が出てくると思います。祭り自体は若者の実生活の中

には何もないですから、それをどういう形で取り入れようかということを考えざるを得ない。その辺のところを少し考えないと、いくら日本の歴史観とか文化とか、今盛んに言われていますが、良く考えると何もないから、そのままそういうものがなくなってしまうのではないかと、社会科学的には予測できるので。若干すごくセンチメンタルな感じで、このテレビを見ました。最後までどうしても、非常にいい番組なので、少なくとも現在まだ持っているわが国の伝統みたいなものを、テレビの映像として残しておくという意味で、非常に意味のある番組じゃないかなと。これを10年20年経ってから、その時代の人が見て、「俺たちの先輩はこういう生き方でもって、人生を考えて生きてるんだな」と考えるチャンスが出てくれば、結構意味のある番組になると。今だったら「面白いな」だけだけど、それが全然なくなったというなら、ガラッと変わった日本の地域社会の中で、「こういうような時代もあったんだよね。そんな昔じゃないよ」ということを考える上でも、非常に良い番組だと思います。歴史として非常に重要な遺産として残していくと、そういう風に考えると、すごくまとまっているし、良いものではないかなと思います。今日本のいろんな文化みたいなものは、これは民俗学の先生がよく言っていることだけど、振り返ってみると、縄文から出て来ているものと、弥生からのものと全然違うんです。海が出てくるのは本来、縄文起源なんだけど、だけど最終的には海が主役じゃないので、これは弥生起源と考えざるを得ない。そうすると本来の縄文起源の日本民族の伝統とは違う。そんなのは我々が論議することはないんだけど、そういう資料として、「俺たちにはこういうことがあったよ」と、資料として残しておくのは非常に意味があるので。いくつかこういうものを残しつつ、最後には一冊になって、後の人たちがもう一回見て、「私たちの伝統文化として、こういうものがあったよね、忘れちゃいけないところもあるんじゃないの」と、反省が聞か

れたら、将来いいと思います。だからすごく良かった。私自身は子どもの時代を思い出して、夢中で見ちゃいましたけど。もっとひどいガキの時代でしたよ。あまり食べ物もないような戦後のどさくさでしたけど、こういうのをやっていた。それがどこかで残ってますものね。そういうものを残していかなきゃいけないなど。そういう文化とか言わないで単純な意味で、自分たちの来たるべき未来のことも考えた、もうちょっとクールに考えた資料としても、きちっとファイルしていくことは大事じゃないかと思いました。以上です。

山田委員長

はい、ありがとうございました。私はこの番組審議委員を長らくやらせていただいておりますが、この視聴合評でこれまでに見た番組の中で、とても印象に残る優れた番組の一つだと思います。その理由としては、同じ神奈川県でも大磯という別荘があって、高麗山はよく子供を連れて登りました。ただ山側の方しか知らなくて、大磯の方にもああいう昭和のレトロを感じさせる、ああいう下町があるのかなというのを、今回の番組で初めて知り、とても興味深く、そういう思いを持ちました。それと、これは吉川さんもお話したのですが、非常に映像がきれいでしたね。大磯海岸のよくああいう波が打ち荒れる様子を撮影したなというような感じがいたします。それと、番組そのものがとても丁寧に作られている。それは、お祭りの用語のひとつひとつがテロップで説明されていて、そういったものもよくわかりました。それとナレーターの方、女性の方。非常に番組の中でうるさくなく、しかも大事なところは視聴していてわかりやすく耳に心地よく入ってきた、そういう印象があります。それとこの番組は四百年という歴史を持つ左義長というお祭りを通して、人のつながり、そういったものを扱った普遍的な番組ではないかというような印象をもちました。地域の方が力を合わせて何かをやり遂げていく。協力し合って一つの問題を解決していく。高齢者がかなり目立っており、後継者を探しているというそういう

課題もあるようですが、ものすごく地域が協力してやっていく。これは防災用語で言いますと、自助・共助のうちの共助になるんじゃないか。ともに助け合う。これはお祭りを通して住民が協力し合って、例えば大きな自然災害の時に、協力し合ってそれを乗り越えるということにもちよっと結び付けられるんじゃないかなと思って、単なるお祭りではなく、お祭りを通した人間の絆と言いますか、かかわりを深めていく内容も十分とらえていたかなと思います。ただ一つ難点と言いますか気になったのは、もう一工夫構成に考えを入れていただければよかったかなという点があります。それはたとえば左義長の歴史を絵巻物で紹介するコーナーがありましたね。それは番組後半になってからそれを出していましたが、あれは本当は最初の方で出して、いろいろ道祖神との関わり、それからこれを大事にする子供の神様だ、そういったものと合わせてあの絵巻物を出した方が、効果があったのではないかと思います。いずれにしても大変優れたドキュメンタリー番組でした。100点満点で280点を差し上げたいと思います。以上です。他にどなたか言い忘れたこと、言い足りないことがございましたら。

- 林委員 吉村さんって、現場にいかれたことはありましたっけ。
- 大谷コンテンツ局次長 ありますね。今回は他のお祭りと確か、重なったと思います。
- 林委員 現場に行かれないで「現場に行きましょう」と言われてもあまり説得力がないので。できれば現場に出て行ってほしいなという気がしました。
- 大谷コンテンツ局次長 それはそれで大変なんです。
- 山田委員長 1月4日の竹を切りに。あれは高麗山ですか。
- 大谷コンテンツ局次長 近くの竹林、高麗山ではないと思います。
- 山田委員長 1月4日のお屠蘇気分が残っているときに。他に何か、言い忘れたこと言い足りないことがありましたら。それではいくつか質問とか、お伺いしたことがあ

りますので、それをちょっとお答えいただければと思います。

大谷コンテンツ局次長　こんなにほめていただけるとは。首を洗ってきたのですが。と言いますのは、今回は実は二か月前に「日本の祭り」のちょうど今年度、うちは2016年の一番初めの番組でしたが、実は言うとも2015年最後の番組をやったのもテレビ神奈川でした。11月の山北の流鏝馬、これも同じく県の重要無形文化財ですけれども、それをやったばかりなんです、先ほど「スタッフが」とおっしゃっていましたが、同じスタッフでやっていますので、準備期間が他の祭りに比べると非常に、もちろんやることはわかるので準備を進めているんですが、それが終わってからやったので、準備期間が短くてどうなることかと思ったんですが、幸いにも登場人物の皆さんにも恵まれて、いろいろな意見が出て来たので、こういう形になることができました。林さんの「スポットライトを浴びた方がいいのか」、吉川さんから「いや、平均でよかったですよ」という。実は、これまでの日本の祭りもどちらかで、大体スポットライトを当てて主人公がいるパターンと、比較的そうではなくて、祭りの全体を追っていくという形のもの。後者の方で、実は山北の方は流鏝馬なので、若い二人が主人公だったので、今回は趣向を変えたというのが正直なところですので。あとは、意外とインパクトの非常に強い主人公の方がいらっしゃらなくて。比較的、外国人の方やボランティアの方など要素が多かったので、今回はスポットライトをどなたかに浴びせるということではなく、という手法を取りました。また「子供のインタビュー」という部分があったんですが、実は子供を取り上げると、なかなか制作は苦勞するんですが、想定するような答えってなかなか子供にはできなくて、しかも優等生的な答えをする子供の声を、つつい使ってしまうんですが、今回の番組に関しては、比較的小子さんたちが淡々とやっているところを紹介した方がいいのではないかという判断で。お子さんたちに「どうですか」と聞く

は聞くんですが、予想通り大した答えが出てこないのと、むしろそういうことよりは、長い歴史の祭りの中で、お子さんたちってそういうもんだと思うんですね、淡々とやっていて、それがだんだんこう育まれていくと思ったので。敢えてお子さんたちの生の声は取り上げずに、比較的普通に今どきの映像を映すことで、今回は表現したというのが正直なところですよ。アーカイブというお話もありましたが、ダイドーさんがサポートしている「日本の祭りネットワーク」、NPOなんですけど、何年にもわたっている、なんだかんだ言って 500 本、600 本、その位の数をアーカイブしているということなので、テレビ神奈川のこの番組に限らず、日本中のいろいろな番組がアーカイブされて残っていくということは、実際に実現しているのかなと思います。いろいろな反省点を踏まえて、「改善されましたね」というところは、大変意識したところなのですが、大体抜けてしまうのですが、吉川さんから「左義長という言葉が抜けてしまう」というところで。他の方からも丁寧にスーパーを入れて、それぞれのお祭りというところで、最初の左義長のところだけは、スーパーを入れ忘れたなというのが正直なところ。あそこで左義長のところで「セイトバライ、セイノカミと呼ばれている」という説明のコメントはあったんですが、あそこは確かにスーパーを入れるべきだったなと反省しています。番組のテーマとしては単純に見てこの祭りは面白いということが、テレビですので第一義にあるんですが、皆さんもおっしゃっていただいた後継者、この祭りを続けていくということに関して、あまり押し付けすぎずに、いろいろなボランティアの方とか外国人の方とか、お子さんたちとかを表現したつもりですので、あまり大上段に構えて祭りの後継者が、後継者がと言ってしまうとちょっと興ざめてしまうところがありますので、そういうところは見えて感じていただいたということを今伺えたので、この部分に関しては私はよかったのかなと思います。なかなか神奈川もたくさんお祭りが

あつて、なくなっちゃいそうなお祭りもあれば、これからの祭りもあるんですが、実は他県に比べると、「ならでは」のお祭りらしいお祭りはそう多くはないものですから、こういう、探り出して、この「日本の祭り」というシリーズ自体はまだまだ続きますので、是非神奈川でいろいろなお祭りを掘り起こして、番組にしていきたいと思っております。お答えはすべてこれでございますか。

山田委員長 はい、大谷さんにいろいろお答えしていただきましたが、何か他にご質問とか聞いておきたいことがございました。

伊藤委員 この祭りを取り上げたときに、確か以前話したような気がしたんですが、良かった番組なので、また見たいとか見せたいという気持ちが自然と湧いてくる時があつて、その時に「テレビ神奈川のウェブ上で、または再放送、もしくは視聴ができる方法はどうなっているんですか」とお話をしたことがあったんですが。2016年現在だと、そういうプランとか政策とか。某公共放送でも真夜中2時3時に過去のアーカイブ的な名作番組を放送そのもので見られるんですが、もし過去名作番組とか、こういった今日の番組を見られる仕組みが計画されているものがあつたら、教えていただければと思います。

大谷コンテンツ局次長 実は「日本の祭り」シリーズは、再放送があつと2回ほどありまして。ただテレビ神奈川ではなく、全国の視聴者に見ていただくということで、これまでの番組はBSイレブンさん、いえ、BSトゥエルビさん、BSの12チャンネルの方で定期的に、神奈川に限らず放送されているのと、東京MXテレビさんで同じように見ていただけるような形で、すべてパッケージになっておるところで、今月3回放送があります。残念ながら、テレビ神奈川でもう一回という予定はございません。将来的に可能性がゼロということではないんですが。

中村社長 通信の方にあげるのも、あれだけ町の方が多いと、そういう方々の許諾を取る手間というのが正直言って、YouTubeにあげるのはやりにくいので。ダイド

一さんのクリアも取らなきゃならないという。

大谷コンテンツ局次長 祭りの方向としてであれば、どんどん見せても問題ないとは思いますが、いろいろな音楽の権利管理とか、あれだけ出ているとなかなかちょっと。そのときにプラカードで「再放送します」とやらなきゃいけない。

中村社長 「YouTubeにあげますよ」とやっても、多分見に来ている人も含めてのクリアというのは、絶対完璧には取れない。ちょっと難しいかな。

大谷コンテンツ局次長 地上波放送のテレビ放送でのおつもりで、映っているのであろうというところで放送しているのが原則です。

山田委員長 この番組審議会の始まる前、ポスターがございますよね。あれ見て「面白そうなのがたくさんあるな」と思って、各社足並みそろえてDVDでも制作して販売したらと思いましたが、第二次使用はやはり難しいですか。

大谷コンテンツ局次長 DVDの発売ぐらいであれば、もうちょっとインターネットの中継よりは、権利関係は処理すればいいだけの話なので。なかなかそこまでは。ただおっしゃったように、テレビの放送前提で、再放送。

山田委員長 はい、他に。

大谷コンテンツ局次長 映像がきれいという話でしたが、いくつかドローンを使わせていただきました。もちろんお祭りのときは使っていませんが。今回ナレーションを担当している女性の方は「カナフルTV」の田崎さんで、13日にフルマラソンを走りますので、是非応援よろしくお願いします。

中村社長 映像のコマは映画チックにしたの？

大谷コンテンツ局次長 映画チックになっているのは、実は小型のカメラで、カメラが違うんです。スト取り出して撮るケースが。「ああ、これなんかカメラ持ってないけど」という形で。それで撮ったのも、ちょっと入っています。最近もコイツは性能がいいのでテレビでも使えます。3~4カットぐらい、コマ落ちというか映画チックな映像

で、スタッフがとっさに撮った映像を使っています。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、3 番目その他報告事項に移りたいと思います。まず視聴者対応からお願いいたします。

玉村編成部長 2月15日から3月6日までにいただいた視聴者からの電子メールが5千件、電話が非常に少なく44件。主な問い合わせの内容はここにございます。「ありがとッ！」についてのご意見は、この番組が3月で終了するということで発表させていただいたのですが、それに対する意見。それから「あっぱれ！KANAGAWA」。「クルマでいこう！」は車に非常に詳しい方。それから「横浜マラソン」については、番組に関係あることかどうかはわかりませんが、こういった内容のご意見も寄せていただいております。もし、どなたか来年お出になる方は。お問合せのメール数は最後のページでご覧いただけます。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局より視聴者対応についてのご説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ございますか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の議事報告に移りたいと思います。

議 事 報 告

中村社長 報告はちゃんとしております。ごめんなさい。

玉村編成部長 大変失礼しました。

山田委員長 本日の議題はこれですべて終了いたしました。何か話しておきたいこと、伝えておきたいことがございましたら。事務局の方から通達事項は。

玉村編成部長 次回の第 364 回の番組審議会は、4月の第3週火曜日、19日2時を予定しております。是非ご出席をお願いいたします。場所はこちらです。合評につきましては、レギュラーで土曜夜に放送しております「あっぱれ！KANAGAWA大行進」。今年もデビット伊東さんでお送りをして参りますけれども、この

番組、しばらく合評をいただいていたようなので、選ばせていただきました。今回特に「いつのもの」と、特定させていただくこともないかなと思いましたが、今週以降どれかをご覧ください、ご批評賜りますように。

中村社長

4月で編成替えということで、視聴者からのあれにもありましたが、「ありがとうッ!」、いま月～金でやらせていただいているものを、昼の12時からの1時間半、30分短くして月～木で「猫の額ほどワイド」と名前も変えて。今まで女性キャラクターがメインでやっていたんですが、30前後のイケメンの連中でバツと揃えて、主婦の心を驚掴みに。あと土曜日の夜に「サタミンエイト」というネーミングですけれども、土曜の夜8時から「あっぱれ!」までの間ですけれども、生のワイド番組を作って。そこら辺がちよっと。ナイター編成もありますが、そんなところを若干編成替えをしようと考えています。次回ちゃんと「4月からこうなります」というご報告はさせていただきます。

林委員

さっきの「あっぱれ!」ですけれども、次回の審議会まで6回ほど放送されるんですよ。皆さんの視聴するのがバラバラになったら、まとまりがつかないような気がするんですけど。

山田委員長

そうですね、「この日を見てくれ」ということで、指定していただいた方がよろしいかもわかりませんね。4月19日ですので、それまでの土曜日の番組ということで。

中村社長

一番面白そうな。

吉川委員

すみません、年間スケジュールみたいなものっていただいていたっけ、この審議会の。

玉村編成部長

書面でお出ししていなかったかもしれないんですが、口頭で。年間10回審議会がありまして、毎月1回ですがお休みの月が8月と12月。原則として第3火曜日です。ただし3月のみ第2火曜日です。今回は4月19日でその

次が5月17日、6月21日、7月19日ということでございます。今年は火曜日に休日等ございませんので、恐れ入ります。

山田委員長

それでは「あっぱれ！KANAGAWA」は大谷さんの番組を凌ぐようなものを指定していただければと思います。では他にないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。